



令和6年度特別支援教育総合推進事業 「発達障がい支援成果普及事業」 東川町の取組み

2024年10月23日(水)

特別支援教育充実セミナー兼発達支援関係職員実践研修

東川町保健福祉課 重層的支援推進室 高橋 直弘



1

1. 町の概要

出生数	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	49人	43人	64人	31人	44人

未就学児 (0歳～小学入学前)	R2. 4. 1	R3. 4. 1	R4. 4. 1	R5. 4. 1	R6. 4. 1
	417人	425人	436人	409人	390人

1. 町の概要

- ◎ 人口 8,332人(2024年3月末)
＜東川町の教育機関等＞
- 幼保連携型認定こども園 1か所
- 保育園 3か所
- 小学校 4か所
 - ・東川小学校
 - ・東川第一小学校
 - ・東川第二小学校
 - ・東川第三小学校
- 中学校 1か所 東川中学校
- 北海道東川養護学校
- 北海道東川高等学校
- 東川町立東川日本語学校
- 旭川福祉専門学校(介護福祉科、子ども学科、医療福祉学科、日本語学科)
- 人生の学校(School for Life Compath)

HIGASHIKAWA THE TOWN OF PHOTOGRAPHY

2

1. 町の概要

- ◎R6年度 小学校第1学年児童数 77名（小学校4校の合計）
※うち特別支援学級児童数 16名

- ◎H29年度 出生数 57名（今年度の小学校第1学年児童に該当）

⇒ 20名の増加

…子育て世代の移住者の影響か

2. 障がい児等支援連携体制整備事業

◎ R5年度に連携推進地域の指定を受ける

- ・打ち合わせの中で、発表内容はQ-SACCSシートを用いて町内の社会資源や事業の整理をし、そこから課題や強みを見つけていくという方向性に決まる
- ・Q-SACCSシートの作成は、東川町地域総合支援協議会子ども部会で実施する

2. 障がい児等支援連携体制整備事業

◎ 東川町地域総合支援協議会子ども部会構成メンバー

- ・相談支援事業所
- ・子ども発達支援センター
- ・放課後等デイサービス事業所
- ・認定こども園、各小学校、中学校
- ・養護学校
- ・学童保育センター
- ・教育委員会
- ・保健福祉課

2. 障がい児等支援連携体制整備事業

◎ Q-SACCS作成に向けて

- ・上川教育局教育支援課義務教育指導班の小寺氏より、子ども部会構成メンバーに、事業とQ-SACCSの作成方法を説明してもらう(オンライン)
- ・メンバーに各自でQ-SACCSシートを作成してもらう

2. 障がい児等支援連携体制整備事業

■Q-SACCS(青:事業化できている、赤:明確化が課題、緑:機能強化が課題)

<市町村名> <人口:人> <年間出生:人>	0~3歳	継時的 インターフェイス (引き継ぎ) 5W1H	4~6歳	継時的 インターフェイス (引き継ぎ) 5W1H	7~15歳
レベルI (毎日) 日常生活水準					
共時的 インターフェイス (情報共有、紹介等) 5W1H					
レベルII (定期的) 専門療育の支援					
共時的 インターフェイス (情報共有、紹介等) 5W1H					
レベルIII 医療的支援	病院 <内・外>	...継続...	病院 <内・外>	...継続...	病院 <内・外>

2. 障がい児等支援連携体制整備事業

Q-SACCS(岡山版アレンジ)シート2020

市町村名: <人口: 約8,600人> <障がい児童生徒数: 約32人>	0~3歳	継続的インターフェース (引き継ぎ)	4~6歳	継続的インターフェース (引き継ぎ)	7~15歳	
レベルⅠ (毎日) 日常生活水準	ア ・幼児センター ・こまくら保育園 ・こまくらひび保育園 ・ひまわり保育園 ・キトキト ・子育て支援センター ・乳幼児健診 ・新生児訪問 ・保健師 ・保健福祉課 ・子ども未来課	カ ・0~3歳児の待機児がいる? ・新しい保育園ができる? ・幼児センターに合わない家庭 がキトキトやトマースチャイルド で行っている ・各所轄から、幼児センターへ 引き継ぎ ・教育支援委員会	ク ・幼児センター ・キトキト ・ひまわり ・保健師 ・保健福祉課 ・子ども未来課	ス ・特別支援教育連絡協議会 ・就学前健診 ・特別支援措置判定 ・特別支援専門部会情報共有 ・教育支援委員会 ・入学期前引継ぎ ・ことはの検査 ・読み書きスクリーニング ・就学指導 ・学童保健利用前面談 ・就学前の相談を受けて、必要に 応じて養護学校の見学等を勧 める ・幼児センター等を見学し、就 学時に関わって気になるお子さ んを事前観察 ・子ども発達支援センターおひ さま訪問・評議会議 ・養護学校コーディネーター訪 問 ・所轄において気になる母子の 情報提供・保健師へ情報提供 ・3歳健診は事前に養護学校 と連携して行うと打ち合わせ を勧める ・保健師の整さ ・保健師の家庭訪問等 ・保健師から、医療、療育機関 への情報提供 ・医療や療育機関についての情 報提供 ・所轄訪問 ・ひさま職員会席 ・定例会で情報共有 ・保護者からの相談	ツ ・パートナーティーチャー派遣 事業 ・養護学校コーディネーター訪 問 ・子ども発達支援センターおひ さま訪問・評議会議 ・3歳健診は事前に養護学校 と連携して行うと打ち合わせ を勧める ・保健師の整さ ・保健師の家庭訪問等 ・保健師から、医療、療育機関 への情報提供 ・医療や療育機関についての情 報提供 ・所轄訪問 ・ひさま職員会席 ・定例会で情報共有 ・保護者からの相談	
共通的インターフェース (情報共有・紹介等)	イ ・子ども発達支援センターおひ さま訪問・評議会議 ・健診時や発見センターで気に なることがある場合はおひさまの 紹介 ・所轄において気になる母子の 情報提供・保健師へ情報提供 ・3歳健診は事前に養護学校 と連携して行うと打ち合わせ を勧める ・保健師の整さ ・保健師の家庭訪問等 ・保健師から、医療、療育機関 への情報提供 ・医療や療育機関についての情 報提供 ・所轄訪問 ・ひさま職員会席 ・定例会で情報共有 ・保護者からの相談	ウ ・発達の遅れや情緒面で気にな ること、トラブル、困難がある 場合医療機関の紹介 ・乳幼児健診で精査検査や医療 受診が必要となる場合は紹介計 画を用意する(発達前の新規医療受 診は半年から1年かかる) ・子ども発達支援センター職員 から医療や療育機関についての情 報提供 ・保健師 ・病院SS ・病院のカンファレンス ・資料提供 ・見学	エ ・発達の遅れや情緒面で気にな ること、トラブル、困難がある 場合医療機関の紹介 ・乳幼児健診で精査検査や医療 受診が必要となる場合は紹介計 画を用意する(発達前の新規医療受 診は半年から1年かかる) ・子ども発達支援センター職員 から医療や療育機関についての情 報提供 ・保健師 ・病院SS ・病院のカンファレンス ・資料提供 ・見学	オ ・旭川子ども総合療育センター ・旭川医大 ・市立旭川病院 ・旭川生駒病院 ・町立診療所 <内: / 外: >	シ ・旭川子ども総合療育センター ・旭川医大 ・市立旭川病院 ・旭川厚生病院 ・町立診療所 ...継続... <内: / 外: >	テ ・旭川子ども総合療育センター ・旭川医大 ・市立旭川病院 ・旭川厚生病院 ・旭川生駒病院 ・町立診療所 <内: / 外: >

9

2. 障がい児等支援連携体制整備事業

レベルⅡ (1ヶ月/週、月程度) 専門療育の支援	ワ ・附属計画(おひさま) ・おひさま定期検査会 ・支援会議 ・1歳6ヶ月健診: 発達相談 (おひさま) ・3歳健診: 発達相談(おひさま)、養護学校 ・こりん相談室	コ ・子どもが発達支援センターおひ さま ・児童発達支援事業所 ・支援会議 ・年少から入園する子の引 き継ぎ	モ ・アセスメント、すぐらむ、支援計 画によって幼児期の本人や家庭の状 況を把握 ・子どもが発達支援センターからの情 報提供、共有(※保護者が気になるお 子さんの育ちの記録についておひさま) ・すくらむの記録についておひさま ・児童相談所 ・教育相談 ・SSW ・放課後特別支援連携会議 ・バートナーティーチャー派遣事業 ・たいせつネット
共通的インターフェース (情報共有・紹介等)	ケ ・発達検査 ・保護者当会議で情報共有、 問題解決の検討 ・保護者と先生の個人懇談に同 席 ・子ども発達支援センターおひ さま訪問・評議会議 ・3歳健診は事前に養護学校 と連携して行うと打ち合わせ を勧める ・保健師の整さ ・保健師の家庭訪問等 ・保健師から、医療、療育機関 への情報提供 ・医療や療育機関についての情 報提供 ・所轄訪問 ・ひさま職員会席 ・定例会で情報共有 ・保護者からの相談	エ ・発達の遅れや情緒面で気にな ること、トラブル、困難がある 場合医療機関の紹介 ・乳幼児健診で精査検査や医療 受診が必要となる場合は紹介計 画を用意する(発達前の新規医療受 診は半年から1年かかる) ・子ども発達支援センター職員 から医療や療育機関についての情 報提供 ・保健師 ・病院SS ・病院のカンファレンス ・資料提供 ・見学	サ ・発達の遅れや情緒面で気にな ること、トラブル、困難がある 場合医療機関の紹介 ・発達検査 ・新規の医療受診は半年から1 年かかる ・個別の指導計画、支援計画の送付 ・学校での様子の共有(手紙段の様 子会議報告書) ・子どもが医療や療育機関についての 情報提供 ・保健師 ・病院SS ・病院のカンファレンス ・教育支援委員会 ・要保護児童対策地域協議会 ・サービス担当者会議 ・資料提供 ・見学
レベルⅢ 医療的支援	ツ ・病院 旭川子ども総合療育センター 旭川医大 市立旭川病院 旭川生駒病院 町立診療所 <内: / 外: >	シ ・旭川子ども総合療育センター ・旭川医大 ・市立旭川病院 ・旭川厚生病院 ・町立診療所 ...継続... <内: / 外: >	テ ・病院 旭川子ども総合療育センター 旭川医大 市立旭川病院 旭川厚生病院 旭川生駒病院 町立診療所 <内: / 外: >

ステップ1: [分担] 事務の全てをひさまへ譲り受け、公認登記 → □ → 全てを外側に委託、公認登記 → △ → 全てを内側に委託、公認登記 → ○
ステップ2: [内側] 事務化できている(手続、質問窓口) → ■ → 物理的分化(内側) (情報のやりとりの場所を内側) → ▲ → 明確化(内側) (内側が明確、人に伝わる) → ▲
ステップ3: [内側] 事務化できている(手続、質問窓口) → ■ → 物理的分化(内側) (情報のやりとりの場所を内側) → ▲ → 明確化(内側) (内側が明確、人に伝わる) → ▲

10

2. 障がい児等支援連携体制整備事業

◎メンバーが作成したQ-SACCSシートをまとめたシートを基に、4つのグループに分かれて、課題や、それを解決するための取組について話し合う

→ 全グループから、共通の意見が出る

Aグループ…支援ファイルがあつたらいい

Bグループ…子育て支援ファイルがあつたらいい

Cグループ…すくらむのようなものを配布できたらいい

Dグループ…情報を引継ぐツールがあつたらいい

- あの時この先生が関わっていたと分かれば電話で聞ける、記録はかなり頼りにして先生方は業務している
- 生まれてから使えるもの、大人になっても活用できるもの
- 使い勝手が良くないといけないが、小さい頃の情報があると転出入の時も役立つし、大人になってからも貴重な情報となる(例えは、障害年金の申請に役立つ)
- 全員配布できればいいが、まずは転入の方だけでも、転入時に事前情報を記載してもらえる簡単な様式で、入園の際に提出をお願いできたらいい(提出は任意)
- 現状、小さい頃のことが分からないことがあり、小さい頃の情報があると関わりを考えることができる

2. 障がい児等支援連携体制整備事業

→ 子育て支援ファイルとはどういうものか?

◎上川教育局教育支援課義務教育指導班の小寺氏より

- 特別支援教育の現状
- 個別の教育支援計画
- すくらむ(上川版個別の支援計画)の概要について

◎東神楽町教育委員会の山下氏より

- 東神楽町における子育てサポートファイルシステム(えんじん)の取組みについて

⇒子育て支援ファイルの概要の理解(再確認)

2. 障がい児等支援連携体制整備事業

◎ 東川町では、どんな子育てファイルがあつたらいいだろうか、グループワークを実施

- ・母子手帳の内容と重ならないように
- ・最小限のシートの配布で、必要に応じてプラスしていく
- ・母の困りを記入できるといい
- ・学校、園、家庭での記録を残していくように
- ・子育てに関する相談、支援機関窓口、施設一覧
- ・支援者(放ディ等)もそこに書き込みたり、ケース会議のプリント等綴じていけると引継ぎやすい

など

【課題】

- ・保管
- ・事業所は似たような内容で書くものがあり、増えるので大変
- ・母が書けない場合、支援者側が記入することになる?

など

2. 障がい児等支援連携体制整備事業

- ・作成委員には、保護者の方にも入ってもらった
- ・母子手帳との兼ね合いも議題に出たが、母子手帳の内容や大きさは変えられなかった
- ・使う使わないは自由で、全員が使うことになるとは思えない、ただ使うとこんなメリットがあるんだ
　ということを伝えていくこと、こんなに簡単にできるんだと利用の難易度を下げる必要はある
- ・相談先が沢山あり、早い段階からの相談によって子育てが楽になるよということを、就学前に知
　つてもらえると、入学以降の支援の受け入れも変わってくるかもしれない
- ・乳幼児期は保健師に相談する、入学後は小学校に相談するが、その間の相談先はよく分からな
　いこともある、幼児センター等に所属していればそこの先生に相談すると思われるが、相談対応
　する人には、知識や連携(それぞれの機関、関係者の役割を理解)のスキルが求められ、育成の
　ための研修が必要ではないか
- ・今後作成していくのであれば、アプリ等のデジタルが便利だと思う、費用等の問題はあるが、デジ
　タルなら共有がスムーズになるのではないか

2. 障がい児等支援連携体制整備事業

◎ 東川町版子育て支援ファイルの作成に向けて

⇒ 作成委員を選出し、子育て支援ファイルのたたき台を作っていく

その前に

⇒ 事務局会議を開催

- ・東神楽町の子育てサポートファイルシステム「えんじん」の作成に関わった方
　に出席いただき、「えんじん」の作成までの流れ、子育てサポートファイルの
　あり方について等の話を聞く

2. 障がい児等支援連携体制整備事業

◎作成に向けた今後の流れ、ファイルについて

- ・まずは、ファイルの内容を考える
- ・親御さんの能力等で作成しない、できない人がいるので利用のしやすさも重要
- ・どういうツールにするのか、用紙にするのか、用紙の場合はサイズはどうするか、母子手帳との
　一体化はできないか、アプリにするか検討
- ・アプリだと一斉配布ができ、説明も都度見返せる、多言語にもできるが、セキュリティや費用が
　問題
- ・色んな人がいて、得手不得手があり、そこでお互いを認め合って生きていくということをコンセプ
　トにしてはどうか
- ・相談できる所があり、アクセスしやすい、きちんとつながることが大事

2. 障がい児等支援連携体制整備事業

◎東川町版子育て支援ファイルが完成すると

教育・福祉各機関の連携、情報共有の1つのツールとなり、
今まで以上に連携、情報共有がしやすくなるのでは…

切れ目のない支援につながるのでは…

2. 障がい児等支援連携体制整備事業

連携推進地域の指定、ありがとうございます。

ご清聴ありがとうございます。

皆様からのご助言、情報提供をお待ちしております。

